



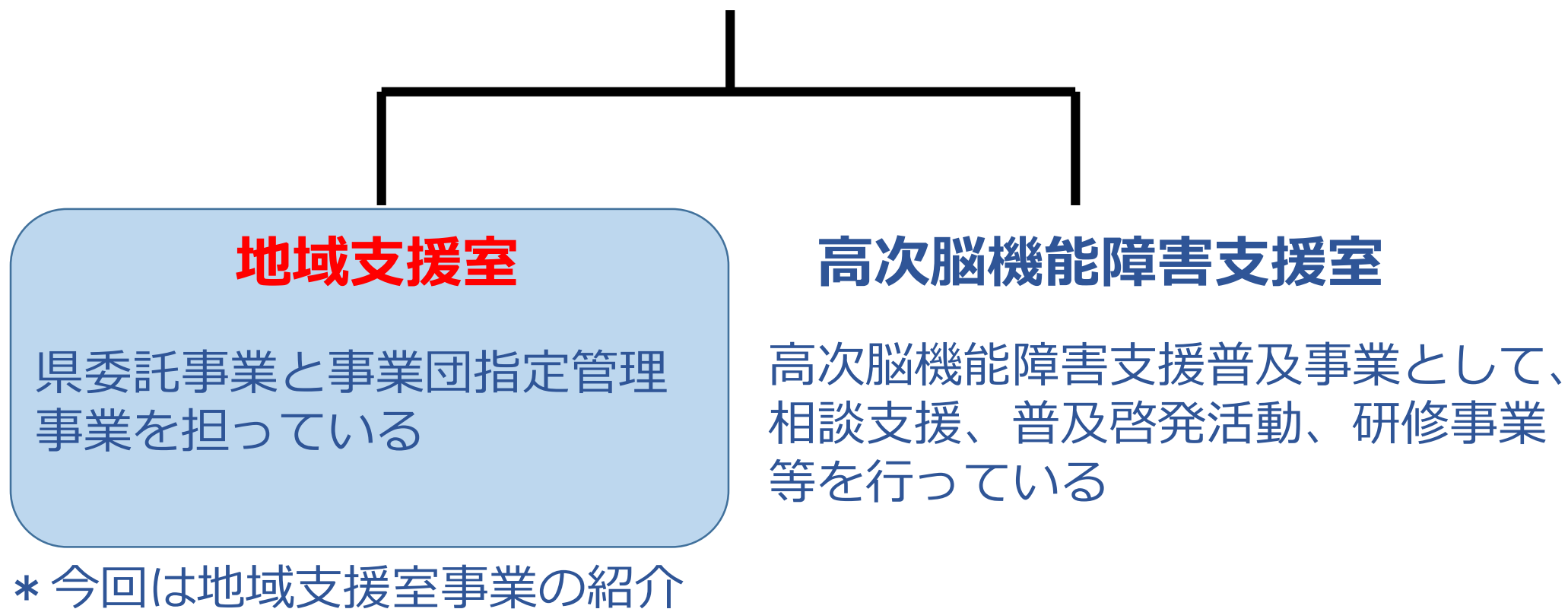
資料3

神奈川県リハビリテーション支援センターの活動報告 (地域リハビリテーション支援センター)

神奈川県リハビリテーション支援センター
令和7年7月17日

地域リハビリテーション支援センターの組織と活動

地域リハビリテーション支援センター



1. リハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供
2. リハビリテーション従事者等を対象にした研修
3. リハビリテーション専門研修
4. その他：地域リハビリテーション支援活動

* 下線は県委託事業

1. リハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供

① リハビリテーション専門相談

② 情報提供

①リハビリテーション専門相談とは

リハビリテーション専門相談は、神奈川県リハビリテーション支援センターの専門スタッフが**市町村及び地域のリハビリテーション関係機関と協働して総合相談・情報提供・技術支援などを実施**するもの。

目的は、課題の解決のみならず、相談事例を通して医療・介護・福祉等の連携を図ることで、**地域の状況に応じた、地域包括ケアにおける地域リハビリテーションシステムの構築を目指す**もの。

①リハビリテーション専門相談：件数

- 令和6年度の**総相談件数は160件**（前年度184件）であった。

新規相談件数104件（前年度114件）であった。

訪問件数は延べ32件（前年度25件）であった。

＊ 総相談件数、新規相談件数は、やや減少傾向であった。
訪問件数は、やや増加傾向であった。

①リハビリテーション専門相談：障害別相談件数

リハ専門障害別	件数	構成比
神経・筋疾患	45(24)	28.1%
視覚障害	37(58)	23.1%
知的障害	17(58)	10.6%
脳血管障害	16(16)	10.0%
脳性麻痺	15(5)	9.4%
脊髄障害	7(4)	4.4%
後天性脳損傷 (除CVA)	7(3)	4.4%
骨関節疾患	1(3)	0.6%
不明	5(3)	3.1%
その他	10(10)	6.3%
合計	160(184)	100.0%

Kanagawa Prefectural Government

()は令和5年度

- 障害別相談件数では、**神経・筋疾患、視覚障害、知的障害、脳血管障害**の順番であった。
- 神経・筋疾患の相談内容では、**コミュニケーション支援**が増加していた。保健所からの相談依頼も増加しており、地域からのニーズの高いことが考えられた。その一方で、知的障害の相談依頼が減少していた。コロナ以前から数年知的障害者施設から加齢による身体機能低下の相談は増加していたが、少し落ち着いてきたことが推測された。

①リハビリテーション専門相談：相談依頼元

リハ専門依頼元	件数	構成比
本人家族	44(65)	27.4%
障害者施設	25(54)	15.5%
保健福祉事務所	18(13)	11.3%
訪問看護事業所	14(5)	8.8%
障害者相談事業所	14(5)	8.8%
居宅介護支援事業所	10(9)	6.3%
医療機関	10(11)	6.3%
高齢者施設	9(7)	5.6%
地域包括	9(12)	5.6%
市町村	1(1)	0.6%
障害者更生相談所	0(1)	0.0%
訪問介護事業所	0(0)	0.0%
教育機関	0(0)	0.0%
その他	6(1)	3.8%
合計	160(184)	100.0%

- 相談依頼元では、**本人家族、障害者施設**が多かった。
- 本人やご家族からの相談については、**地域の関係機関（者）と連携**を取り、地域で継続対応できるように調整している。

①リハビリテーション専門相談：圏域別相談件数

圏域	件数	構成比
県央	57(69)	35.6%
湘南東部	25(10)	15.6%
湘南西部	24(19)	15.0%
横須賀・三浦	20(24)	12.5%
県西	8(15)	5.0%
横浜市	16(30)	10.0%
川崎市	2(3)	1.3%
相模原市	4(9)	2.5%
県外	4(5)	2.5%
合計	160(184)	100.0%

- 圏域別相談件数では**県央**、**湘南東部**・**西部**が多かった。
- 当センターが設置されている県央圏域からの依頼が多かったが、**湘南東部**からの相談件数の増加がみられた。ここ数年湘南東部地区からの相談件数の少ないことが課題に挙げられていたが、地域との関係づくりや郵送などによる支援センター活動紹介が相談件数増加につながったと考えられた。
- 横浜・川崎・相模原の各政令市や県外からの相談依頼は、原則として各地域へ繋いでいる。

①リハビリテーション専門相談：訪問・来所の対応内容

訪問・来所の主たる目的	件数	構成比
補装具・福祉用具機器	9(10)	28.1%
コミュニケーション支援	7(1)	21.9%
支援内容検討	6(0)	18.8%
介護指導	4(1)	12.5%
訓練プログラム指導	4(9)	12.5%
環境整備	1(3)	3.1%
医療	1(0)	3.1%
ADL指導	0(1)	0.0%
その他	0(0)	0.0%
合計	32(25)	100.0%

- 訪問・来所の件数は**増加傾向**であった。感染予防による訪問の抑制が解除されてきていることが考えられた。
- 訪問に至る相談内容では、**コミュニケーション支援や支援内容の検討**が増加していた。要因として、**地域の人材不足**が考えられ、引き続き当支援センターの関わりが必要と推測される。
- 訪問を行う際には、**地域の支援者と連携し、地域の課題解決能力を高めること**を目標に対応していく。

コミュニケーション支援への課題と対応

地域の課題

- ① 支援をアセスメントできる地域の人材不足
- ② 実際に試用できる機器不足
- ③ ①と②を踏まえて対応までに時間がかかる
(特に進行性疾患の場合、早期の対応が必要)



＜支援センターの対応＞

- 早期に対応するためのコミュニケーション機器の準備
- 専門スタッフ(病院のリハエンジニア含む)
- 相談できる団体等の情報提供

②リハビリテーション情報提供

- 各年度初めに、地域リハ支援センターの業務内容を記したパンフレット、リハビリテーション専門研修予定等を**県内の行政機関、病院、事業所等、約 1 7 0 0 箇所**に送付している。
- ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関の情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集、広報誌「**地域リハビリテーション支援センターだより**」を掲載している。
- ホームページへのアクセス数は、44,788件（前年度46,111件）で、前年より少し減少傾向であった。

②リハビリテーション情報提供：支援センターだより

- 「地域リハビリテーション支援センターだより」は、A3版両面2枚で、研修や専門相談の事例紹介等を掲載し、**県内約240機関へ年4回**配布している。
- 2009年に創刊してから、2024年2月号で通算100号となった。
- 今後も「だより」を通じて支援センターの活動内容を紹介しながら、地域との連携を図っていく。



● リハビリテーション従事者等を対象にした研修

①研修目的

②昨年度の研修内容

③今後の研修テーマ（予定）

①研修目的

地域のリハビリテーション関係機関が、相談機関・コーディネーターとして支援を行うことができるよう、また、多職種のリハビリテーション関係機関と協働で支援機関の連携形成などを目的に、リハビリテーション従事者向けの研修を行う。

②昨年度の研修内容：逗子市 ハイブリッド開催

R6		
テーマ	難病の支援と多職種連携について	
日時	令和6年12月13日（金）	令和6年12月20日（金）
研修	パーキンソン病の初期段階について各専門職から	難病の方のコミュニケーション支援についての考え方、進め方
内容	難病に関わる保健所の支援について保健師から講義、運動習慣の重要性と実際の運動教室の対応についてセラピストからの講義	コミュニケーション支援についての関わり方について、ソーシャルワーカー及びセラピストの講義と機器の体験会（現地参加者）
結果	参加者 計：55名 （内訳：会場23名 オンライン32名）	参加者 計：48名 （内訳：会場25名 オンライン23名）
	参加者アンケートによる評価 3.83（4点満点）	参加者アンケートによる評価 3.83（4点満点）

②昨年度の研修内容：愛川町 対面開催

R6		
テーマ	愛川町・厚木市・清川村の介護を考える	
日時	令和7年1月19日（日）	令和7年2月5日（水）
研修	今さら聞けない自立支援型地域ケア会議について	愛川町・厚木市・清川村の住民の暮らしを支えるために必要なこと～本音で語り、本気で語る多職種連携とチームケア
内容	自立支援型地域ケア会議を開催する上での重要なポイントの講義と、実際に開催している小田原市を例にした具体的な会議運営に関わる報告	現状の各地域を取り巻く状況や課題、多職種連携を実践するための講義と、グループワークを通じて地域の関係づくりを促進
結果	参加者 計：17名	参加者 計：46名
	参加者アンケートによる評価 4.00（4点満点）	参加者アンケートによる評価 3.95（4点満点）

③今後の研修テーマ（予定）

引き続き、**リハに関わる専門職同士の連携促進**のため、それぞれの役割についての**共有及び意見交換の場を提供**する研修を行う。開催地域や内容に関しては、各地域のニーズを考慮し決めていく。

- 地域の多職種連携のあり方や地域の課題解決についての意見交換
- 病院の専門職と事業所・施設等の地域の専門職との連携



今年度は県西地区や綾瀬地区を候補に検討中

3.リハビリテーション専門研修

①研修目的

②昨年度の研修内容

③今後の研修予定

①研修目的

目的：地域のリハビリテーションに関わる**人材育成や技術伝播・向上**

対象：医療・保健・福祉・介護専門職を幅広く対象

内容：地域の状況やニーズ、専門相談の依頼内容等を踏まえ、各年毎に
内容を決定

方法：対面開催を原則に座学だけでなく、**体験や実技、グループワーク**
を取り入れた実践的な研修

②昨年度の専門研修報告

NO	研 修 名	開催日		定員	総受講者延数	評価/4
1	からだにやさしい介助入門	6月1日	土	30人	32名	3.9
2	ポジショニング入門	6月12日	水	30人	33名	3.9
3	セラピストのためのハンドリング入門	7月6日	土	30人	45名	3.9
4	在宅における循環機能低下のリスク管理	7月27日	土	30人	17名	3.7
5	脳血管障がいの評価と治療	9月7日	土	20人	25名	3.9
6	ADL支援の知識と実践	9月28日	土	30人	27名	3.9
7	知的障がいのある方への支援	10月8日	火	30人	48名	3.8
8	視覚障がいのある方への支援	10月23日	水	20人	17名	3.9
9	排泄ケアの知識と実践	11月2日	土	30人	33名	3.9
10	摂食嚥下障がいのある方への支援	11月14日	木	30人	30名	3.9
11	褥瘡予防セミナー	12月3日	火	30人	44名	3.9
12	維持期における装具支援	1月25日	土	30人	23名	4.0
13	車いすシーティング	2月1日	土	30人	33名	3.9
合計		開催回数13回		370名	407名	3.9

③今年度の専門研修予定

No.	研 修 名	開 催 月 日	定員	会場
1	セラピストのためのハンドリング入門	5月10日（土）	30人	神奈川リハビリテーション病院
2	ポジショニング入門	6月5日（木）	30人	ウィリング横浜
3	（新）ノーリフティングケア入門	6月6日（金）	30人	ウィリング横浜
4	神経難病の「人」と関わるコミュニケーション支援	6月21日（土）	20人	神奈川リハビリテーション病院
5	知的障がいのある方への支援	7月5日（土）	30人	神奈川リハビリテーション病院
6	地域生活における装具支援	7月19日（土）	20人	神奈川リハビリテーション病院
7	車いすシーティング	9月6日（土）	30人	神奈川リハビリテーション病院
8	ADL支援の知識と実践	9月27日（土）	20人	厚木看護専門学校
9	視覚障がいのある方への支援	10月4日（土）	20人	神奈川リハビリテーション病院
10	からだにやさしい介助入門	10月18日（土）	30人	厚木看護専門学校
11	摂食嚥下障がいのある方への支援	11月15日（土）	30人	神奈川リハビリテーション病院
12	褥瘡予防セミナー	2月14日（土）	30人	神奈川リハビリテーション病院

4. その他：地域リハビリテーション支援活動

- 県内政令市との連絡会
- 保健福祉事務所の難病支援事業への協力
- 県内特別支援学校での福祉用具体験会開催

県内政令市との連絡会：かながわ地域リハビリテーション支援連絡会

目的 : 県内の政令市との地域リハビリテーションに関わる情報交換・連携
2012年から継続開催

参加施設 : れいんぼう川崎 川崎市北部・中部・南部リハセンター
横浜市総合リハセンター 相模原市更生相談所

開催方法 : 各施設交替で年2～3回程度 対面ないしオンライン

テーマ : 地域の課題をピックアップしながら、各施設での現状や対応を報告
(2024年 ①IT支援 ②中途障害者の復職支援)

意義 : 政令市との関係を深めていくことで、県内の地域リハ支援の向上

保健福祉事務所の難病支援事業への協力

目的：県内の保健福祉事務所から難病支援事業への協力

回数：2024年度は8か所から計13回の依頼あり
(コロナ以降依頼が増加傾向)

対象：神経難病者及びご家族

内容：当事者向けの講演 運動指導・体操教室 個別訪問相談

意義：保健福祉事務所の事業に協力することで、地域包括ケアシステムへの推進協力

県内特別支援学校での福祉用具体験会の開催

目的： 支援学校での福祉機器の体験や生活における相談

方法： 2012年より県内各支援学校で開催 コロナ禍期間は中止
2024年より再開 茅ヶ崎支援学校で開催

内容： 移乗・移動支援体験（リフター等）、コミュニケーション支援機器体験
栄養食品・おむつ展示相談 学習機器体験等

対象： 支援学校の児童及びご家族 学校職員 学校に関わる支援者

費用： 無料

意義： 学齢期からライフステージに沿った地域での養育支援への協力

まとめ

- 神奈川県リハビリテーション支援センター（地域リハビリテーション支援センター）の活動を報告した。
- 引き続き、県内の地域リハビリテーションに関わる支援者をサポートする活動を行い、医療・介護・福祉・教育等の地域リハビリテーションネットワークの構築と多職種の地域連携を目標に対応していきます。

以上です。

詳細は、「事業報告書 令和6年度」
社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
(神奈川県リハビリテーション支援センター)
をご覧ください。

※ 事業報告書は、行政・病院・施設等に6月末から順次発送しております。